



# 学校だより

(6月号)平成30年6月1日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

## 【学校の教育目標】

◎ 夢 (ゆめ) に向かって ともに学びあう学校

- ・進んで勉強する子
- ・自分からあいさつのできる子
- ・仲よくたすけあう子
- ・じょうぶな子

《今月の生活目標》・友だちの輪を広げよう

## 6月は、『いじめ撲滅強化月間』

校長 河井 尚

さいたま市教育委員会では、毎年6月を「いじめ撲滅強化月間」として、様々な取組を行っています。「いじめはダメ！やっちはいけない！」「見て見ぬふりをしてはいけない」多くの人がわかっているのになくなる「いじめ」。そんな状況を打破しようと平成23年度から始めました。

いじめの態様にはいろいろありますが、そのひとつに「言葉」があります。我々人類は「言葉」を持つが故に現在のような発展を遂げましたが、一方で、「言葉」には人を追い込み、傷つける力も持ち合わせています。

「死ぬ」「消えろ」「うざい」「きもい」

あえて掲載しました。これらの言葉、みなさんには、どのように響きますか。テレビ番組の中でもよく聞かれますが、人を否定し、存在を否定する、まさに「暴力」

「いじめ」といってよい「言葉」だ、と私は思っています。「いじめはダメ！やっちはいけない！」と声高に叫ばれていますが、先の4つの言葉を何気なく、軽い気持ちやノリで使ってしまったはいませんか。

先週末のことです。地元を歩いていたとき、自転車に乗った親子とすれ違いました。そのとき、その親子のやり取りが聞くとともに耳に入ってきました。お子さんの友達のことを話しているようです。その会話の中で親御さんが「へ～、Aちゃんてキモいの？」と発し、子が「うん、そ

う。キモいの。」と返していました。ショックでした。普段の何気ない会話だと思うとなおさらでした。

大人の言動の重さを考えさせられました。Aちゃんがそばにいて、親子の会話を聞いていなかったことだけが救いでした。もし、Aちゃんが「キモい」の一言を聞いていたらと想像するとゾッとしました。そして、親とともに「キモい」と答えた子どもの将来が本当に心配です。

「一つの言葉で」で始まる詩を紹介します。

ある先輩に教わった詩ですが、「言葉」がもつ力を考える上での参考にしてください。日常の思わぬ言葉、何気ない一言も、やはりその人の心がそこにくっついていきます。冷たい心からは冷たい言葉が、温かい心からは温かい言葉が生まれてくるのです。だから何気ない言葉も人を傷つけることもあれば、逆に人を温かくすることもあるのです。やはり、それぞれの心のあり方が大切なのだと思います。

- 一つの言葉でけんかして
- 一つの言葉で仲直り
- 一つの言葉で頭が下がら
- 一つの言葉で心が痛む
- 一つの言葉で楽しく笑い
- 一つの言葉で泣かされる
- 一つの言葉はそれぞれに
- 一つの心をもっている
- きれいな言葉はきれいな心
- 優しい言葉は優しい心
- 一つの言葉を大切に
- 一つの言葉を美しく

